

江戸開府四百年記念

江戸四宿 特集 特別号

保存版

VOL.
16

町雑誌

千住

SENJI



価格 300円 MACHI-ZASSHI SENJU



目 次

特集 江戸四宿	1
江戸四宿よもやま話	2
江戸四宿くらべ	2
四宿は路地がおもしろい	3
江戸四宿・数くらべ	4
美女くらべ	4
甘味は四宿に欠かせない	5
お閻魔さま	6
富士塚	7
町歩きのあとには手土産を	7
やっちゃんばと蔵のまち 千住宿	8
日光街道と奥州街道の初宿	8
湊と遊興のまち 品川宿	16
東海道の初宿	16
木曾路に続く起伏を感じるまち 板橋宿	21
中山道の初宿	21
武家屋敷と華やぎのまち 内藤新宿	26
甲州街道の初宿	26
江戸開府400年記念イベントMEMO千住編	31
連載 千住を詠む①	32
お願いなど	32

表紙イラスト／なかだえり
イラストはイメージです。

江戸四宿

さらに一般庶民にとつても同様に、旅立ちの町であり、江戸から出る人、帰る人、それに送る人、迎える人でいつも賑わう、「動いている町」だった。当時の旅は、次いつ会えるともわからぬ一大事。別れに一席設けてドンちゃん騒ぎというはお決まりごと、となればその場所は、やはり旅籠も飲食店も集まつた便の良い四宿なのである。江戸近郊にありながら店が多く旅籠には飯盛女（遊女）もいたので、旅に出なくとも遊ぶにはもってこい、自然も残していたため花見や寺社詣でなど、旅に出ない人にとって遊び場として育っていくこととなり、文人墨客をも集めたのである。

江戸というのは、18世紀には人口100万に達する、なんと世界最大の都市である。それほどの大都市の莫大な物資、人、通信、それに文化の出入り口が、4つしかないとする……。想像してみて欲しい。江戸の町々がどつしりと構えて日々を営んでいたとすれば、江戸四宿は、いつも異なる人々、文化を迎えてダイナミックに変化する町だったのである。



江戸四宿は江戸と他の町を結ぶ五街道の最初の宿場町。御府内（江戸市域）というの是一時期あいまいとしていたが、文政元年（1818年）に地図上に赤い線を引いて示され、以降、朱引内とも呼ばれた。おおむね四宿あたりを境としてその内側といえる。



■江戸四宿くらべ

四宿は路地がおもしろい

千住といえども路地の町ともいわれるくらい、路地は魅力にあふれるが、他の3宿も同様に路地を楽しめる町である。



新宿から四谷にかけての路地というと、今は飲み屋の連なる横丁と、四谷荒木町の坂道路地に風情がある。江戸の香りはもう薄いが、その後の時代のなかで、歓楽街や花町として育ってきた足跡が、色っぽく感じられる。



千住宿の路地は、間口が狭く奥に長い町割りに沿って、旧街道から両側に細く延びる路地。街道と並行して走っていた用水路まで続き、当初その外は田畠だった。今も生活道として多くの人が通る路地が多く、緑豊かでほっとできる空間だ。



板橋宿の路地は、北側（上宿側）は起伏のある路地が面白い。緑にあふれ、昔ながらの町家が続く路地に時々出会う。仲宿・平尾宿の路地は、縦横無尽に折れ曲がる。宿場らしい細長い町割が見られないのは「人口がそれほど多くなく、奥に長い敷地を必要としなかったからでは。また、平尾宿あたりでは、加賀の下屋敷の敷地が街道近くまで広がっていたことも要因でしょうね」（板橋区立郷土博物館 小西雅徳さん）のこと。いくつもの現役井戸や井戸の跡を見発見でき、生活の香をたっぷり感じられるのが楽しい。

江戸四宿 よもやま話



平成の世に四宿を歩くと、江戸から四百年も、それにさまざまな変遷を経てきたというのに、何やら似た風情を感じるのは何故だろう。まちの人の程よい加減の人なつっこさ、銭湯、だんご屋、富士塚、おえんさま、七福神に、商店街の賑わい……。過去と現在を織り交ぜながら、四宿の共通点、似ているところ、違っているところを探つてみよう。

西に都があった時代から、東海道は幹線道路のひとつだった。江戸を基点とする5街道のなかでは、古くから用いられてきた街道であり、文献から、鎌倉末期にはすでに品川湊の繁盛ぶりがうがえる。品川宿は早くから江戸近郊の一大遊興地として栄え慶応2(1866)年の人口データを見ると、男性23人、女性19人、庄内人と、圧倒的に女性が多いのもそのせいである。地の利から四宿のなかでは一番の賑わいで、品川宿に来る客は、芝の僧侶5割、薩摩屋敷の武士3割、町人2割などといわれ、僧侶や武士が多かつたのも特徴である。

一方内藤新宿も、安永(1772~80)の頃には吉原に劣ることはない（『岡場遊廓考』より）とされるほどの美女揃いで、調度品や衣裳、部屋の造りなども芳らず、繁盛ぶりはかなりのものだったといふ。そもそも他の宿場より約100年遅れて、それも武士の住宅地だった近辺に、なぜか浅草の町人たちの申し出によりつくられた宿場町であることから「皮肉にも、公認の遊郭の吉原からもつとも遠くに、もっといい顧客が住んでいたことになる。浅草の5人の商人はそこに目をつけた。目のつけどころはなかなかない。これも浅草安部川町

は19軒だった茶屋も、安永8(1779)年には50軒、天明8(1788)年には65軒と急増。茶屋と旅籠屋は客引き合戦をするなど、競争関係もあり賑つた。内藤新宿を行通する大名の数は3（2）家で、他の3宿と比べて格段に少ないが（4ページ参照）、江戸時代後半には物見遊山もかねた寺社参詣も増え、富士山、身延山、妙法寺へと向かう道中として多く庶民に利用された。内藤新宿の出来事は多く錦絵に描かれて残つており、幕末には江戸の一部となり始めた様子が伺える。

文献に「品川や新宿と比べると田舎っぽい風情」（『中山道第一の駅としても、江戸から見れば品川、千住宿ほどの賑わいを呈していたように見えない、一面寂しげな宿場でなかったか』）というような表記の見られるのが板橋宿。近江商人や信濃、加賀、越中などの商人の通行が多く、

江戸に出むく人が通過する町だったからである。（中略）名主の喜兵衛は、はるばると、内藤下屋敷のほうからやつてくる幹人を見ていた。ご苦労にも、三里も四里もの道をやつてくるのだ。四谷に宿場を作り、飯盛女を置くと、繁盛はまちがいなしだ。（後略）（『江戸東京を歩く宿場』塩見鮮一郎著（三一書房）より）との推測も、当たらずしも遠くではなかろうか。明和9(1762)年には19軒だった茶屋も、安永8(1779)年には50軒、天明8(1788)年には65軒と急増。茶屋と旅籠屋は客引き合戦をするなど、競争関係もあり賑つた。内藤新宿を行通する大名の数は3（2）家で、他の3宿と比べて格段に少ないが（4ページ参照）、江戸時代後半には物見遊山もかねた寺社参詣も増え、富士山、身延山、妙法寺へと向かう道中として多く庶民に利用された。内藤新宿の出来事は多く錦絵に描かれて残つており、幕末には江戸の一部となり始めた様子が伺える。

文献に「品川や新宿と比べると田舎っぽい風情」（『中山道第一の駅としても、江戸から見れば品川、千住宿ほどの賑わいを呈していたように見えない、一面寂しげな宿場でなかったか』）というような表記の見られるのが板橋宿。近江商人や信濃、加賀、越中などの商人の通行が多く、江戸開府以前に、隅田川に最初にかけられた橋である。千住大橋と川辺の風景は、江戸の人々にとってひとつの印象的なランドマークであり、多くの錦絵などに描かれてきた。江戸の各地にはそれが七不思議があつたが、隅田川の水辺にはほととじて集中していた。千住にも七不思議が言い伝えられており、「千住大橋と紺鯉」「千住大橋と大蛇」「牧の野の大蛇」など川辺の物語が多い。川は古くより物資運搬の重要な手段であり、隅田川のほとり、街道沿いの町千住には、宿場成立以前よりやつちやば（野菜市場）が成立し、物資の集まる場所、流通する場所として機能していたようである。そのため宿場となつてからも、宿場としての役割以外に経済的役割も担い、四宿のなかで最大の人口を抱えたのである。江戸時代の後半には、文人墨客を集め、自由闊達な地域文化を開花させた。世に名高い「千住の酒合戦」は、当代一流の文化人を集め、さまざまな画や文のなかにその足跡を残すものである。

江戸四宿・数くべ

数を比べると四宿の町の意外な一面がわかる。街道に沿った宿場の長さが一番長いのは、千住宿。繁栄にともない、宿場が南へ南へ広がつていった結果。旅籠や食売旅籠の数が多いのは、圧倒的に品川宿だが、家の数や人口は、やっぱなど経済機能も持つていた千住宿が多い。本陣脇本陣の数にも差があるが、不足時には寺社などを利用した宿場もあれば、大名が泊まらぬ普段は普通の旅籠屋として使つていた宿場もあり、臨機応変に対応したようだ。

	千住宿	品川宿	板橋宿	内藤新宿
宿場の長さ	2400m程	2145m程	1700m程	999m程
日本橋からの距離	2里8町程	2里程	2里半程	2里程

本陣	1	1	1	1
脇本陣	1	2	3	0
旅籠	55	93	54	24
家数	2370	1561	573	698
人口	9956	6890	2448	2377

(以上天保14(1843)年)

食売旅籠の数	55	92	52	25
(飯盛女(遊女)を抱える旅籠、江戸末期頃)				
参勤交代大名数	66	153	41	2

(文政4(1821)年)

歌川豊国(三代)が、安政の頃、江戸名所百人美女といふ100枚の錦絵を描いてゐる。そのなかに見られる四宿の美女を見てみよう。美女の後ろのコマ絵は、門人の國久が描いた風景だとか。町の様子も伺える。さて、あなたは、何宿派?

歌川豊国(三代)が、安政の頃、江戸名所百人美女といふ100枚の錦絵を描いてゐる。そのなかに見られる四宿の美女を見てみよう。美女の後ろのコマ絵は、門人の國久が描いた風景だとか。町の様子も伺える。さて、あなたは、何宿派?

甘味は四宿に欠かせない

30年ばかり前の千住には餅菓子屋が80軒もあったと聞いて、「忙しい商いのまちに元祖ファーストフードの餅菓子屋は欠かせないんだ」と感じ入ったものだが、四宿を歩くと、いずれ劣らぬ甘味処が多いにまた驚く。

各宿を代表する甘味をチェックしてみた。

新月堂のいたばし最中

板橋宿

板橋宿本陣跡の向かい。昔の板橋をかたどったいたばし最中(120円)は甘さ控えめ。十勝の小豆餡と牛皮が、香りよい皮に小ぶりに包まれた人気の一品は現当主の考案。昔を想わせる宿場だんご(80円)は、しょうゆ味がオススメ。もちもちとした食感と醤油が軽く焦げて香ばしく、買ってからのせててくれる海苔とよくあう。

●板橋区仲宿56-15 ●3961-2025 ●水曜定休 <http://members.jcom.home.ne.jp/shingetsudo/>



新宿



薄くてカリっとした皮のたいやきは、尻尾の先までちょっと塩味のさいたつぶあんがぎっしり詰まっていて大満足。この微妙な職人技!! 安藤鶴夫の「鯛焼のしっぽにはいつもあんこがありますように」を社訓としているとか。また、「東京繁盛記」の作者で洋画家の木村荘八の色紙から起こした型で作るたいやきは、なんとも愛らしい。創業は、昭和28年。●新宿区若葉1-10 ●3351-4396 ●日曜定休



あまいのといういは「あん」ののつただんごで、からいのといういは甘辛の「たれ」をからめただんご。ちょっと平べったいのが特徴の槍かけだんごは、とにかくやみつきになる美味さ。最上級のうるち米の粉を、蒸して、ついて、冷ます、その作業を何度も繰り返することで、きめが細やかでこしのあるだんごになるのだという。最後に七輪で焦げ目をつけた、やさしいあたたかさが人気で、お客様がひっきりなし。旧街道に面し、明治40年に古材で建てられたという商家の、大きなガラスいっぱいに広がる懐かしい風情も素晴らしい。

●足立区千住5-5-10 ●3888-0682 ●不定休

新宿



千住宿



錦絵「江戸名所百人美女」歌川豊国(三代)画
(新宿歴史博物館、品川歴史館、江戸東京博物館蔵)

江戸には有名なえんま堂が66ヶ所あったというが、

四宿という江戸の入り口にはそれぞれ立派な閻魔像があり、今も残る。四宿に残る数は相当のものだ。

「おそらくこれは、市域の内側をシャバ、外を他界とみたてた、近世都市江戸のコスモロジーの名残なのだろう」（アサヒグラフ1988.8.10より）という説もある。閻魔大王の好物はこんなやくだと、よく供えられたそうだが、つまりは引き抜かれた古の代わり。抜かれる前に代用品で何とか……との下心だったよう。だから、岡場所にはほど近い閻魔堂では、どの客にも「あなただけが好き」と言つて暮らす遊女が、梳いっぱいのこんにやすくを供えたこともあったとか。遊女たちの住処だった四宿に閻魔さまがおわすというのも、ふむふむなるほど。やむをえぬ嘘をやさしく許して女性たちの心を癒す、実はふところ広い神様なのかもしれない。

江戸には有名なえんま堂が66ヶ所あったというが、四宿という江戸の入り口にはそれぞれ立派な閻魔像があり、今も残る。四宿に残る数は相当のものだ。「おそらくこれは、市域の内側をシャバ、外を他界とみたてた、近世都市江戸のコスモロジーの名残なのだろう」（アサヒグラフ1988.8.10より）という説もある。閻魔大王の好物はこんなやくだと、よく供えられたそうだが、つまりは引き抜かれた古の代わり。抜かれる前に代用品で何とか……との下心だったよう。だから、岡場所にはほど近い閻魔堂では、どの客にも「あなただけが好き」と言つて暮らす遊女が、梳いっぱいのこんにやすくを供えたこともあったとか。遊女たちの住処だった四宿に閻魔さまがおわすというのも、ふむふむなるほど。やむをえぬ嘘をやさしく許して女性たちの心を癒す、実はふところ広い神様なのかもしれない。



品川宿のお閻魔さまは、法禅寺、東海寺、長徳寺にあり、長徳寺のえんま堂には、奪衣婆像、十王像、地獄絵もある。写真は長徳寺のお閻魔さま



千住宿では、今もえんま開きの日の縁日が賑う赤門寺（勝専寺）（写真左右）と、投げ込み寺でもあった金蔵寺にある。金蔵寺のお閻魔さまは、娘姿に扮して夜な夜なそばを食べに出かけたという逸話の残る、通称「そば閻魔さま」。写真は赤門寺のお閻魔さま

富士塚

古来から続く富士山信仰は、江戸時代にはますますさかんとなつたが、直接出かけていくことができない人も多い。そこで、造られるようになつたのが富士山のミニチュア版、富士塚だ。それらが四宿かいわいにはちゃんと残っているのが、うれしい。

新宿富士

花園神社

新宿区新宿5・17・3

昭和3(1928年)

板橋氷川富士 氷川神社
板橋区氷川町21・8
安政2(1855年)
江戸時代から仲宿平尾宿の鎮守として祀られてきた氷川神社。
富士塚もさることながら、その両脇の庚申塔（正徳2(1712年)造と享保5(1720年)造）も見どころ。

品川富士

品川神社

品川区北品川3・7・15

明治2(1869年)

鳥居をくぐって53段ある長い階段の途中から脇にそれる道がある。15mもある立派な富士塚の登山道で、通称品川富士。頂上からは品川宿が一望できる。

千住川田富士

大川町氷川神社

文政7(1824年)

千住大川町12・3

千住の川田富士は、23区内に現存する富士塚の中で4番目に古く、今も山開きの行事が縁日とともにに行われている。また、千住宿にはこのほかにも3ヶ所の富士塚がある。千住の人は富士山好き? (町雑誌千住10号参照)

町歩きのあとには一キ土産を

四宿のうち三宿で、宿場町の酒を見つけた。町歩きの帰りには、江戸の遊楽地らしい手土産を持ち帰ろう。

板橋宿の酒

板橋宿の酒

藤澤屋の「宿場町 板橋」
ご主人自ら米作り、酒造りに加わって出来たこだわりの逸品。純米は板木の烏山の酒造で作られ、出荷前に洞窟で寝かすことで味を落ちさせます。大吟醸は長野の酒造で造られていて、2003年の全国品評会で金賞をとった。やや辛口だが、米のうまみを感じさせる、とろりと味わい深い酒。発売7年目。●問先／藤澤屋（板橋区仲宿57-14）3961-0343

大吟醸720mlが2230円（税別）



「いたばし二輪草」

区と商店会が協力して3年前に作った酒。さらっとして飲みやすい純米は交流都市である栃木県今市市の老舗造り酒屋で、辛目の本吟醸は金沢市の酒造で醸造されている。区内の酒店で購入できる。

●問先／板橋区商店街振興組合連合会 3962-3808

本醸造300mlが370円（税込）

千住宿の酒

千住宿の酒

千住

千住に酒蔵を構えたことのある太田酒造が、地元の酒販組合有志といっしょになって今年発売にこぎつけた酒。太田酒造といえば、江戸城を築いた太田道灌を始祖とし、平成14年度全国新酒鑑評会では金賞を受賞した実力派蔵元。能登を代表する杜氏による「千住」はやや辛口のさわやかな飲み口。酒販組合有志の店で購入できる。●問先／酒千会3882-1005（太田酒造（株）東京営業所内）特別本醸造720mlが1000円（税別）

品川宿の酒

純米720mlが1068円（税別）



千住

千住

千住に酒蔵を構えたことのある太田酒造が、地元の酒販組合有志といっしょになって今年発売にこぎつけた酒。太田酒造といえば、江戸城を築いた太田道灌を始祖とし、平成14年度全国新酒鑑評会では金賞を受賞した実力派蔵元。能登を代表する杜氏による「千住」はやや辛口のさわやかな飲み口。酒販組合有志の店で購入できる。●問先／酒千会3882-1005（太田酒造（株）東京営業所内）特別本醸造720mlが1000円（税別）

千住宿

[日光街道と奥州街道の初宿]



旧街道の道幅をそのまま残すにぎやかな商店街を歩くと、ところどころでふと、タイムトリップさせられる

まち、千住。震災戻を免れた千住宿は、家の数や人口が一番多い宿場町として栄えた。なぜなら千住にはやつちやば（野菜市場）が江戸開府の1603年以前よりあり、野菜の江戸への入り口でもあつたし、また隅田川を利用した舟運があり、川魚の集積地でもあつたなど、宿場の仕事以外で生計を立てる人も多かつたのだ。さらに後世にも、北関東・東関東からの鉄道や道路がいったんは千住を通る交通の要所となつたため、物流、そして人の流れの拠点として、千住はつねに「動くまち」であつた。

寛永2(1625)年に千住が日光道中の初宿と定められたときには千住1〜5丁目だけであったが、その後徐々に南へと規模を拡大し、万治元(1658)年に掃部宿、河原町、橋戸町、万治3(1660)年には隅田川南岸の小塙原町、中村町を加え、10町となり、賦わいを増したのである。明治4年の町名改正で、千住宿北組、中組、南組と呼ばれたほか、明治期千住に暮らした森鷗外の文章などから、大千住（隅田川より北）、小千住（隅田川より南側）とも呼ばれたことがわかる。

千住といえは藏

宿場町には概して蔵が多いが、千住には今も、幕末から近代までの約50棟の蔵が残る。現在その多くはトタンでおおわれているが今も倉庫や住居として現役で使われている。

宿場町に課された諸費用の分担は、通りに面した間口の広さで決められたので、町割りは一般に間口が狭く、奥に長い。千住は典型的な宿場町の町割りがそのまま残る町だ。旧道沿いに一般的な商家の間取りというと、街道に面して店、その奥に住まい、その奥に蔵、さらに奥に家作（貸家）が裏通りまで続く。家作が作られるようになって、通路として、街道に垂直な細長い路地が多数、はりめぐらされる。千住の蔵が表通りに見えず、路地のなかに隠れているのも、このよくな町割りのせいである。

千住は、宿場町であり、また青果物を売るやつちや場もあった。江戸という一大消費地を抱えて地方との中継となる商いの町として発達し、後にターミナル駅としても栄えた。そんな千住に残る蔵は大きくなり、商家の蔵、駅近辺の大きめの蔵（倉庫）、質屋の蔵に分けられる。

（町雑誌千住6号 参照）

千住みやげにぴったりの「千住めぐり」（600円税別）は、蔵の形の箱に9個入りで、ひとくちサイズが程良い美味しさ。●販売／喜田家北千住ルミネ店 3870-5247



千住宿の情報は…

千住・町・元氣・探険隊
足立区千住緑町2-33-23
☎3870-7055
<http://1010tankei.fc2web.com/>

足立区立郷土博物館
足立区大谷田5-20-1
☎3620-9393

千住sin
<http://www.adachi.ne.jp/users/senjusin/>

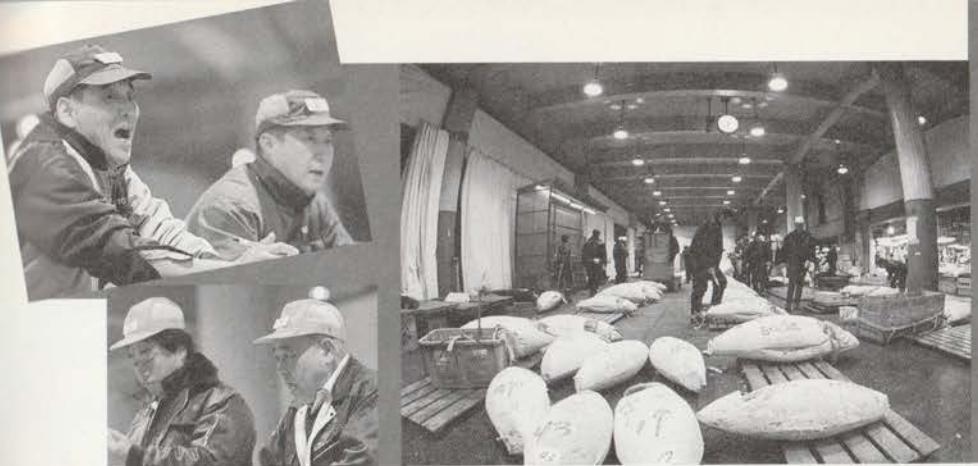
北千住商店街
http://www.adviser.co.jp/kitase_nju/



市場へ行こう！

江戸開府以前より、青果物を売るやつちやばがあり舟運の拠点でもあった千住には、今も流通の拠点「東京都中央卸売市場足立市場」通称「千住の魚河岸」がある。

プロ向けの市場だが、一般人が利用できる場所も多い。千住大橋すぐそばのゲートを入って右手の食堂棟は、どこもオススメ。市場に来る食のプロたちを相手にしている店だから、魚も美味しいし、魚以外のメニューにも特徴がある。すぐに見つけられる食堂棟以外にも、関連事業者棟、市場の建物の2階、また場外などにも、定食の安さとボリュームに驚かされる店、意外なものを感じておもしろい店がたくさん！また、2年前から市場内で毎月「お魚教室」が開かれており、1000円の参加費で魚のおろし方や塩辛の作り方を実習した上、新鮮な魚を試食できるとあって大人気だ。



骨つきといえば 千住の名倉

名倉直賢氏（1750～1828）が骨つきを開業したのは江戸中期の明和年間のこと。「どぶ板で名倉しましたと籠籠でくる」など数々の江戸時代の川柳に千住の名倉医院が骨つきの代名詞のように育つていった様子が、見てとれる。

現在も名倉医院の建物は、江戸明治大正昭和成と時代をなぞるよう建っている。庭も素晴らしい、千住の中でも格別のタイムトリップスポット。実はこの建物、1848年（嘉永元年）に将軍家の鷹狩りの休息所になることが決まって、当時の当主名倉市蔵氏が突貫で行った大改築のたるものなのだそうだ。

現院長・8代目の名倉直孝先生は、自宅からそのまま隣の家の中に入って抜けたり、こまごました路地や道なき道を通り駄菓子屋に行ったり、千住の子ども時代が思い出深いと話してくださった。「今もある道はあるのかなあ？ 今そんなことをしたら、叱られるでしょうけどね（笑）」。

●名倉医院 足立区千住5-22-1



武家屋敷のような造りが残る千住の名倉医院



江戸時代から昭和40年代頃まで診療室として使われた部屋



伊豆の長八の傑作が残る

「目が生きているんですね」「初めて見たときときつとしました」と、参拝者に感銘を与えてきた

きつねの絵。千住の橋戸稻荷神社本殿扉に、伊豆の長八が文久3（1863）年に残した作品だ。この絵とは、左官職人が壁塗りの道具「こて」を使って漆喰の壁面に描く立体の絵のこと。伊豆の長八は江戸期の左官の名工で、江戸と伊豆を行き来しながら各地に作品を残した。都内に残る作品は数少ないが、千住

親子ぎつねは傑作のひとつと言われ、その表情の豊かさから「長八は千住

をしたので

は？」もしかしたら子もいたのでは？」なんて推測をする人も。また長八の作品が四宿に何ヵ所か見られるのも興味深い点だ。●橋戸稻荷神社 足立区千住橋戸町25



で恋



実物は扉の中で、残念ながら年に3度のみ開帳だが、レプリカが橋戸稻荷神社に置かれている。開帳は、2月3日、5月13日、9月15日の10時～14時



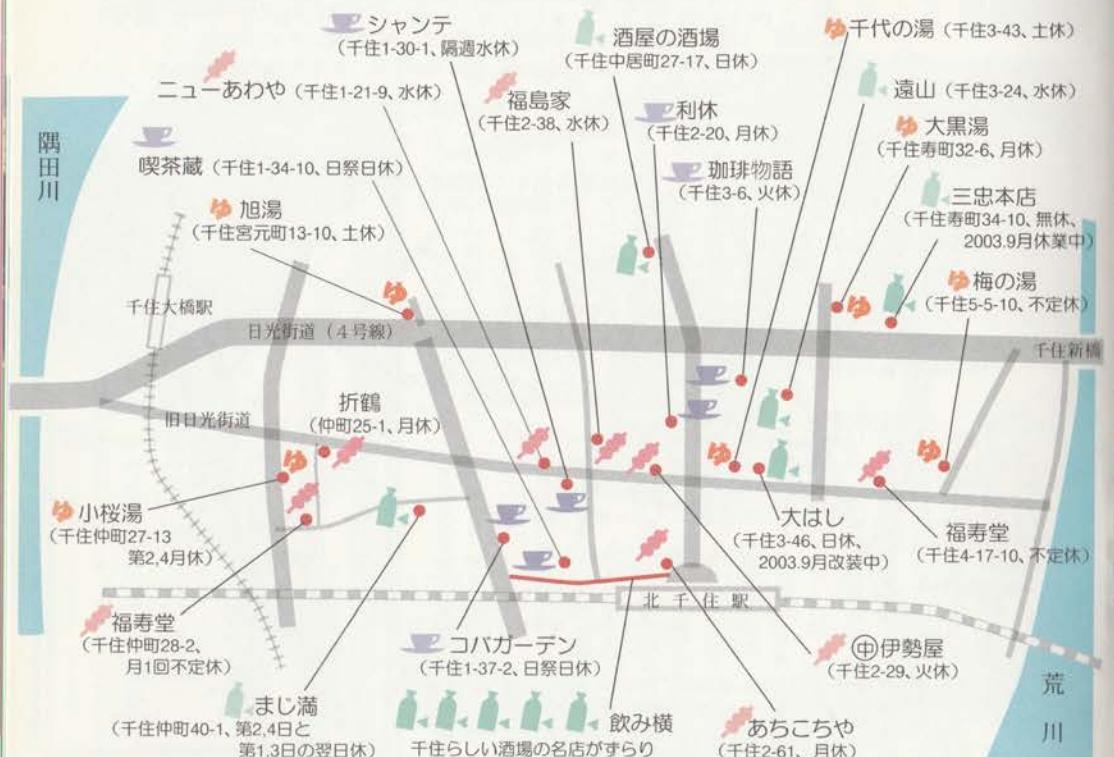
■その3 ■大衆酒場



新しい店、各国料理、激安店と千住には飲食店が数々あるが、千住を歩くなら大衆酒場をはずす手はない。安くて美味くて丸ごと昭和の雰囲気、さらにあるじのキャラクタ一抜群の名店揃いだ。



■ちょっと一杯？ マップ

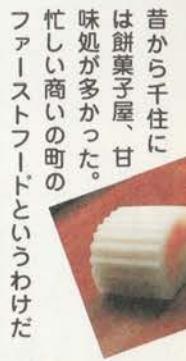


「千住宿まちの小さな物語」

ちょっと一杯？

町歩きの途中で、あるいは歩いて一汗流したあと、ぜひともひと休みして欲しいスポットが千住宿には揃っている。

■その1 ■ 餅菓子屋 & 落ち着く喫茶店



■その2 ■ヒーリングスポット



千住のヒーリングスポットといえ
ば、オススメは銭湯と荒川。何とい
つても千住は、銭湯博士の町田忍氏
が「銭湯のコールテントライアンク
ル」と呼ぶ銭湯充実地域。旧千住宿
近辺にも数軒ある。天井の高い銭湯
でひとときを過ごせば、疲れも一
気に吹っ飛ぶ。そして、千住の北側
一帯に広がる荒川。缶ビールと焼き
鳥、はたまた団子とお茶缶でも買い
込んで、土手の芝生に寝転がれば、
青い空がどこまでも広がる…快感。

の絵も書き綴じてきている。
地図あんどんとは、ことわざなどをもじった馴熟落と絵と文字で描いたあんどんだが、その文面に昔の文化や暮らしを感じ取れるば



千住の地

破れないようにとハウチ、そして
その仕上げも全部、メンバーたち
の手作りで、1個200円という安値
を設定して、祭のときに軒下に吊
ろうと町の人たちに呼びかけた。



この本片手に、歩いてみませんか？

と云ふ、
のために
町の中に
触れるの
て良かつ

です」（5町会連合2003年代表の久保田修平さん）と、夢は広がっている。

取材・文・写真／丹羽根子
新規取材写真／伊東知子、武居厚志

河村光雄著（文芸社）本体1,000円
全国大型書店で発売中。取寄せもできます。
問合せは文芸社（5369-12299）へ

ころばせた。
回覧板のみで呼びかけたが、当
初予想の200個を大幅に上回る約400
個の注文があり、手作りした人々
はうれしい悲鳴。横丁や路地を中
心に、2003年8月末から懐かしい風
景がよみがえり、「いいなあ」「き
れいだなあ」と町行く人々の足を

たなあつて思いました」と頬をほ

じられないよな」千住宿かいわい、の連合渡御も主催する5町会連合の面々が集まるとそんな話が出る。千住の祭りといえは、東京でも珍しい江戸期の神輿が町を回るので貴重だが、昨年の連合渡御20周年を期に考えついたのが地囗あんどんである。千住には、東京でただ一軒残る貴重な文化財、手描きの絵馬屋があるが、ここでは祭礼用に地囗あんどんの絵も描き続けてきている。

戸期から変わらぬ絵柄を伝えており、とてもきれいでほつところ和む。仲がよくて、酒が好き、千住の雰囲気が大好きで、千住しさをなんとか残

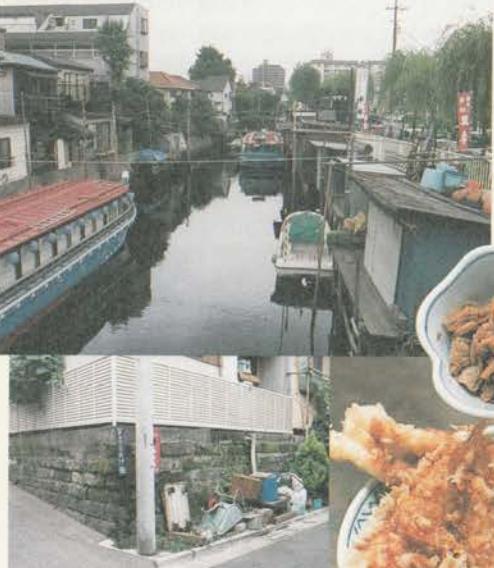


思つてゐる5町会連合の面々は、さつそく繪馬屋さんに話に行き木枠はメンバーの家具職人が手がけ、中に入れ電気やコードは安いものを探して秋葉原まで出かけて購入、側面の屋号はパソコンで江戸文字で制作、雨での手作りで、1個200円という安値を設定して、祭のときには軒下に吊るすと町の人たちに呼びかけた。

160～170種ある絵柄を
今回すべて描いた千住
の絵馬屋の吉田晁子
さんも、すべての絵柄が
一度に揃うことはまずない、
「今までは一部のお客さまの
描いていましたが、今回は用紙
で多くの皆さんのに触
れて、私もうれしい。やってて

5町会連合の仲間が集まって、夜な夜な地図あんどんを手作りした

舟だまりの風景



↑海岸だった名残の石垣が、町のところどころに見られる

→天ぶら三浦屋のさかな丼。品川宿では、潮の香を楽しみたい



海沿いの宿場町、品川といえば海苔だった。浅草海苔として知られる海苔は品川で養殖されていた。現在はすたれてしまったが、東海道名所図絵などには海苔づくりの風景が描かれている。海に近い宿場町だったことを感じさせる風景は今もたくさん残っており、船宿の連なる風景もそのひとつ。地上にありながら品川船宿と名のつく「天ぶら三浦屋」(北品川1丁目28-11)のご主人は元漁師さん。子どもの頃には海苔を探った覚えがあるそう。おすすめのさかな丼(1100円)は、あなご、きす、めごちと江戸前の魚を使った一品。生の魚にこだわって仕入れているため、旬の新鮮な魚の味が口の中に広がる。菜種油を精製した白絞油を使って軽く揚げた天ぶらはサクサクの食感。生姜の味が効いたあさり煮付け(400円)、11月末から3月頃限定の生海苔の煮付けなど、潮の香いっぽいに楽しめる。

「明治のころからここで店をやってるわよ」とは稻垣ヒデ子さん。平成元年、母から引き継いだ3代目。最初はタバコを、そのうち荒物や日常雑貨を扱うようになり、現在のように駄菓子を扱いはじめたのは戦後からだそう。お店の前には小さなお稲荷さんがありその広場には子ども用の椅子が置いてある。使ったらちゃんと重ねて片付けるのが約束で、壊した場合は弁償させる。ルールを守らなければこわい小母ちゃんだが、その眼差しはあくまでも優しい。

また菓子と対照的なようだが、この辺りは「鉄火巻」発祥の地。かつてこの付近には賭場があり、その賭場=鉄火場で手を汚さず片手間に食べられる食

事として考えられたのが鉄火巻だそうだ。サンドウィッチもサンドウィッチ公爵がボーカーの合間に食べるため考案したというから、東西を問わずギャンブル好きの考えることは同じかもしれない。

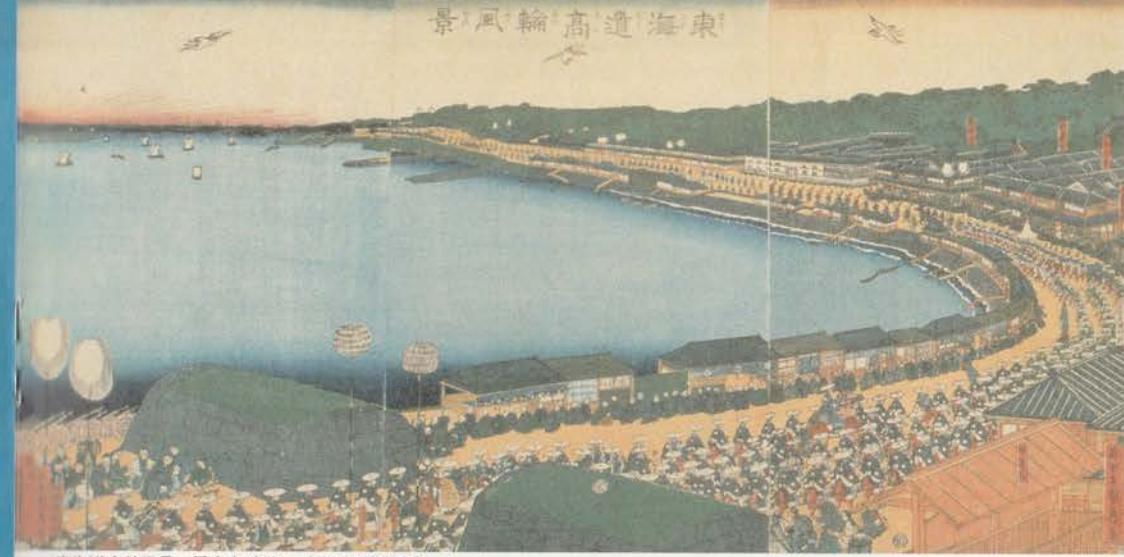
→年代物のコカ・コーラの自販機。もちろん現役で使われている



ひっさりなしに子ども達がやってきて一個10円からある駄菓子を買っていく



品川宿は海苔の産地だった



東海道高輪風景 橋本貞秀画 (品川歴史館蔵)

みなと 湊と遊興のまち

北品川橋の橋の上に立ってみよう。屋形船が舫っている運河の向こうに長屋が連なり、その背後に超高层の品川インター・シティのビル群がそびえ立っている。2003年10月には、新幹線の品川駅も開通し、現在の東京の西の玄関口ともなる。新旧のダイナミックな対比の中に、昔ながらの海沿いの宿場町の心意気が残っている、それが品川宿の魅力である。

品川宿は四宿のなかで一番歴史が古く、江戸ができ東海道として整備されるもつと前より漁業と海運で物流の拠点として栄えてきた。旅するだけでなく遊興の地としても栄え、飯盛女を置いた食壳旅籠屋の数も四宿一で、天保14(1833年)調べでは92軒、同時期の千住55軒、板橋52軒、新宿25軒に比べてダンツツであった。当初の品川宿は、日黒川を境とする北品川宿と南品川宿で成り立っていたが、町の繁栄とともにさらに北側に茶屋や旅籠屋ができ、本宿を脅かすほどとなり、享保7(1722年)、北品川歩行新宿として品川宿に加わった。湊町であったため、廻船問屋や海産物問屋などがいくつもあり、それ

ら豪商達によっていくつも神社仏閣が建造された。今でも旧街道筋を歩くと多くの神社や寺に出てくわすが、よく見るとほとんどが街道より山側に存在することに気づくだろう。旧街道から一本東側からは昔は海だったからだ。度重なる埋め立てによりできた現在の地形からは考えられないが、江戸時代の地図と比べてみては昔は海だったからだ。度重なる埋め立てた御殿山下砲台場の地形が、そのまま台場小学校の敷地になつていていたり、海水湯という銭湯では昔は海水でお湯を湧かしていたり、かつて海岸べりであつたことを偲ばせる石垣が所々に残つたりする。風景や食べものなどに、今も潮の香を感じられる町である。

品川宿

【東海道の初宿】

品川宿の情報は…

旧東海道品川宿周辺まちづくり

協議会・新宿お休み処

品川区北品川 2-2-10

☎3472-4772

<http://www.japan-city.com/sina/>

しながわ瓦版

<http://www.sinakan.jp/>

品川区立品川歴史館

品川区大井 6-11-1

☎3777-4060

しながわ観光協会

品川区西品川1-28-3

品川区中小企業センター内

☎5751-7600

<http://www1.cts.ne.jp/~sinakan/>



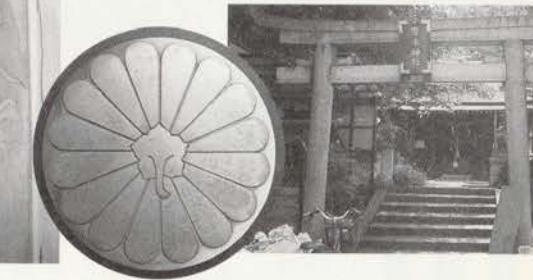
伊豆の長八の足跡

寄木神社／品川区北品川1丁目28番8号

善福寺。本堂正面の欄干の龍、そして左右の昇り龍と下り龍の壁画も長八の作だそうだが、かなり落剥していくそれがまた凄みをもっている



寄木神社。天御安命と猿田彦大神のこて絵が本殿入口の扉に、また本殿そのものの彫刻も長八の手によるものではないかといわれる



昭和31(1956)年公布の売春防止法によって姿を消した。土藏相模の豪奢な建物を見ることができる。



昭和初期の土藏相模 (写真提供: 品川歴史館)

たのは近年まで建物が残っていた土藏造り旅籠、通称「土藏相模」。伊藤博文や高杉晋作など勤皇派の志士たちが訪れ、落語「居残り佐平次」の舞台にもなった。その後品川宿の遊興施設は、食壳旅籠屋から貸座敷へさらに北品川カフェー街として、時代に翻弄されつつもしたたかに存続し続けたが、昭和32(1957)年に、当時さがみホテルとして営業していた土藏相模の豪奢な建物を見ることができる。

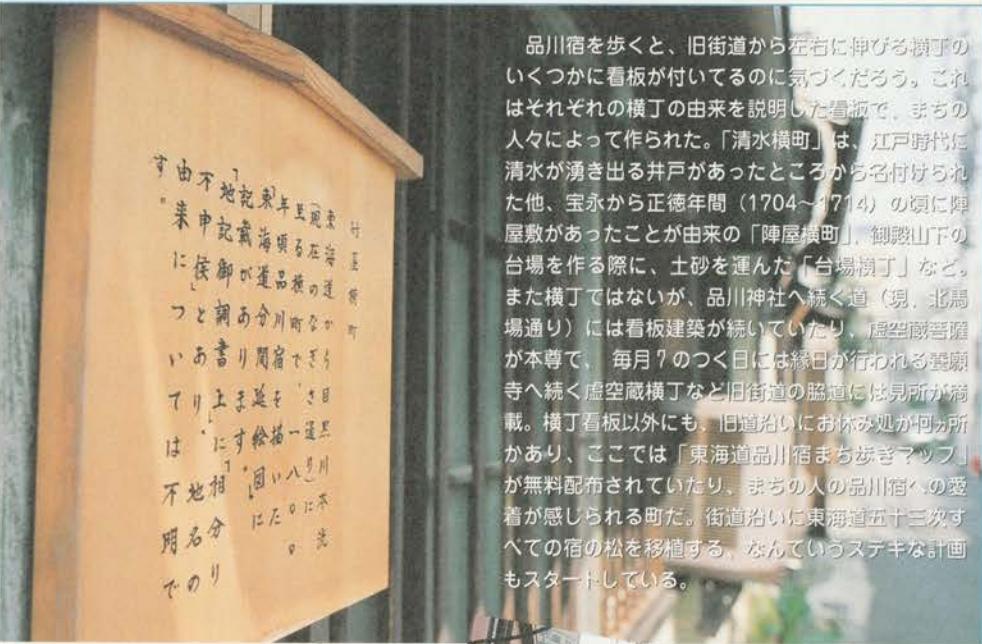
よれば、品川宿は人口6890人、家数1561軒のうち、食壳旅籠屋92軒、平旅籠屋19軒、水茶屋64軒あり、飯盛女を置かない平旅籠屋に対して飯盛女を置く食壳旅籠屋の数が4倍以上。他の3宿よりも飛びぬけて多かった。これは、品川宿が東海道の第一の宿場としてだけなく、御殿郊の遊興地として捉えられていたからだ。「北国」と呼ばれた吉原に対して、「南国」「南蛮」とも呼ばれていたそう。

千住で伊豆の長八といえば橋戸稻荷神社の狐のこて絵が有名だが、品川宿にも長八はその足跡を残している。明治5(1872)年、貸座敷・相模楼からの招きで品川に出向き、当時一番大きな技楼、土藏相模や松岡か樓などで作品を制作している。

作品のほとんどは大震災や戦災で焼失しているが、善福寺と寄木神社に残る。

ところで、寄木神社の紋はいつの頃から菊花の紋。寄木神社の神輿は、荏原神社のかっぱ祭り同様海に入るが、水中渡御で天皇家と同じ紋の上に人のお尻が乗っかかるのは失礼だろう、ということになり、考え方付いたのが裏返しの紋。よく見るとガクと枝が付いている。裏返せば、お尻が下ってことになる? なんてユニーク!

品川宿を歩くと、旧街道から左右に伸びる横丁のいくつかに看板が付いてるのに気づくだろう。これはそれぞれの横丁の由来を説明した看板で、まちの人々によって作られた。「清水横町」は、江戸時代に清水が湧き出る井戸があったところから名付けられた他、宝永から正徳年間（1704～1714）の頃に陣屋敷があったことが由来の「陣屋横町」、御殿山下の台場を作る際に、土砂を運んだ「台場横丁」など。また横丁ではないが、品川神社へ続く道（現、北馬場通り）には看板建築が続いている、虚空蔵菩薩が本尊で、毎月7のつく日には縁日が行われる薬願寺へ続く虚空蔵横丁など旧街道の脇道には見所がある。横丁看板以外にも、旧道沿いにお休み処が何ヶ所かあり、ここでは「東海道品川宿まち歩きマップ」が無料配布されていたり、まちの人の品川宿への愛着が感じられる町だ。街道沿いに東海道五十三次すべての宿の松を移植する、なんていうステキな計画もスタートしている。



「新宿お休み処」。まち歩きマップや昔の写真、お茶などをサービス。いつも町の人人がいて、昔の話を聞くことができる



木曾路に続く 起伏を感じるまち

板橋宿

【中山道の初宿】



錦絵「木曾街道板橋之駅」 溪斎英泉画（板橋区立郷土資料館蔵）

板橋本町駅A3出口を出て正面が中山道。右に少し行くと環7を右、また少しうつて右に曲がった所が旧中山道。ゆるやかな下り坂を進むと、街道筋には歴史の跡が、路地には今的生活が見えてくる。中山道は、木曾街道を経て京都にいたる街道。往来も多く、江戸時代の5街道では東海道に次ぐ賑わいを見せた。板橋宿を歩いていて印象的なのはアッパダウンが多いこと。上宿あたりでは左右の路地に入つても登つたり下つたり階段だつたり。さすが山々を越えていく中山道らしく山道の入り口という感じがある。元々山を削つて街道を開いたからだとか。

そして商店街の活気。スーパーやチーン店もみえるけれど、米屋、豆腐屋、酒屋など専門店がたくさんあって元気そう。町の人々も気さくで話しやすい。今回の板橋宿取材はほとんどアボなしだつたのが、行くところ行くところ、快くお話を聞かせてくれる方ばかり。これも宿場町の特徴なのだろうか？

中山道の第一宿板橋宿は、江戸側から、平尾宿、中宿、上宿の3宿で成り立つて

いた。宿の中心は中宿で、問屋場・本陣・脇本陣一軒・荷物貰目改め所などはここにあり、平尾宿と上宿に脇本陣が一軒づつあった。宿の東側には、加賀百万石前田家の下屋敷があり、その敷地は21万8000坪という広大なもので現在も地名や学校名として残っている。板橋という地名は石神井川にかかる板橋から來たといわれるが、その板橋自体は平安時代末期にはすでに架けられていたとか。昔は旅人、現在はそこで生活する人々で賑わう板橋宿。江戸から明治、そして戦後と激動の時代を力強く生き抜いた町の人々は今でも旅人を明るく迎えてくれる。

板橋宿の情報は…

仲宿商店街振興組合

<http://www.nakajuku.net/>

板橋区商店街振興組合連合会

板橋区板橋2-65-6情報処理センター6階

☎3962-3808

<http://www.i-shoren.com>

板橋区立郷土資料館

板橋区赤塚5-35-25

☎5998-0081

板橋区立郷土資料館に保存されている
新藤楼の玄関部分

←役所跡の飲食店街の現在の風景

観明寺境内にある
豊川出世福荷社の玉垣

仲宿の路地を入ると、風情あるレンガ堀に出会う。(写真右)江戸時代から明治期まで営業していた、板橋宿で最も大きな旅籠屋伊勢孫の堀である。8代目の松村純雄さんにお話を聞く事が出来た。街道に面したところから、仲宿41番地全てが伊勢孫の敷地だったそう。松村さんが子どもの頃に蔵で見た昔の宿帳には、本人の名前、出所や行く先、旅の目的などの他に、人相や身の丈まで記してあったとか。また、「近藤勇が板橋の刑場で首を切られたときにはうちへ泊まれたと聞いています」なんてエピソードも。レンガ堀は明治期のものだが、震災後に改築され、コンクリートに覆われていた。現在の住人が一部、そのコンクリートを除いた。堀沿いの三角の石は、荷車や馬車の車輪から堀を守る車よけで、今はほとんど地中に埋まっているが貴重な歴史の証人だ。

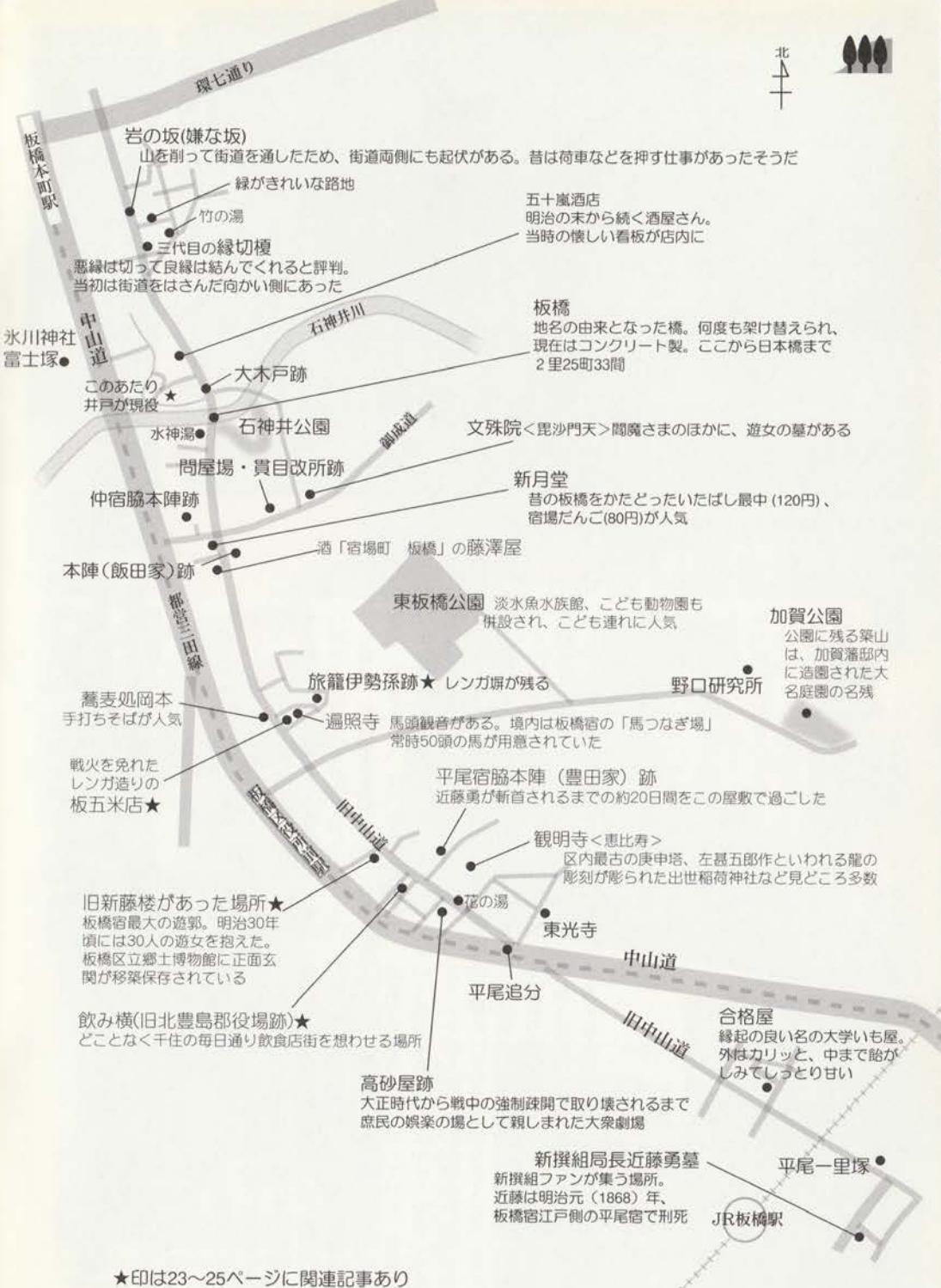


レンガ堀の足元の三角の石を見逃さないで

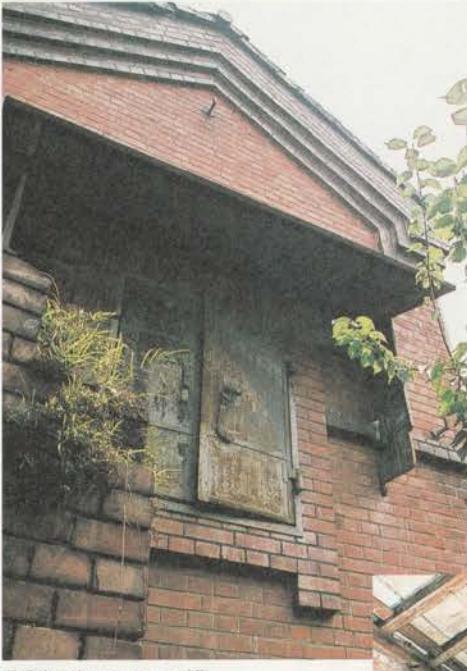


一大遊郭地だった板橋

宿場町にとって旅籠は最も重要な要素であり、宿客の相手をした飯盛女もまた宿場繁栄の大きな担い手だった。しかし明治に入り16年には上野熊谷間に鉄道が走り、板橋宿に寄る旅人も少なくなった。更に明治17年の大火で、上宿、仲宿を中心とした約300軒が一夜のうちに焼失してしまう。この頃北豊島郡役所が仲宿から移転することが決まり、跡地は商店や飲食店街に。旅籠業者はこのまわりに新築し、妓楼として再生をはかった。これが板橋遊郭となり、明治半ば、かつての板橋遊郭街は北豊島郡役所跡を中心に形成されていたという。記録によると当初は15軒、遊女数103人となる。明治30年代には遊女数222人となり、大正4年には13軒170人。昭和18年に最後まで営業していた新藤楼が勤員学徒の寮にあてられたため廃業した。郡役所跡地は戦後ショーンベン横丁などと呼ばれ、どことなく色っぽい飲み屋街となって今に至る。



★印は23~25ページに関連記事あり



母屋裏の庭にあるレンガ蔵



旧街道に面した板五米店



蔵内部



(取材・文／藤井紀章、写真／川上佳子、伊東知子)

仲宿、旧街道沿いにひときわ目を惹くレンガ造りの建物がある。「板五米店」は「板橋五丁目食料販売所」を短くしたもの。庭にはレンガ作りの蔵もある。大震災で出来た亀裂が少しあるだけでゆがみもなく、堂々と建っている。室内にむき出しのレンガは、夏もひんやりと気持ちがいいそう。戦火で周りはほとんど焼けてしまったが、この家は運よく免れた。資料によると、震災前の大正6年築。それ以前、街道筋で没落しかかっていた店を、現当主のおじいさんが復興させ建てた家で、当時は炭や馬の肥料、一般雑貨を扱う何でも屋、奉公人も使っていた。米を扱うようになった後、戦争で米が統制品になり、7~8年は人に貸したこともある。「夏や冬は少々つらいけど、エアコンは付けない。レンガに穴をあけるのはかわいそうだから」と静かな愛着を見せる3代目川口和男さん。4代目となるお嬢さんが、どんな男性を連れてくるのかが目下の心配事。「人につぶさせるくらいなら、自分でつぶしたいから」(笑)。



路地を歩いていると現役のポンプ式井戸を発見。終戦後位から使われていて、今は飲み水以外の、掃除や植木用に利用されている。水も冷たく澄んでいて、気持ちいい。周りの7,8件で共同管理、壊れた時はお金を出し合って修理する。最近は専門の業者もなくなり、修理できる人も少ないのだと。すぐそばに国道17号線が通っているとは思えないほどのどかな気分にさせてくれる。この路地では今でも井戸端会議が見られるのかな。



石神井川沿いの路地。緑がきれいに手入れされている。写真の女性がまいでいる水も井戸水とのこと



甲州街道の蛇行

四谷一新宿間の甲州街道（現在の新宿通り）が緩やかに蛇行しているのは、この辺りの谷の多い地形の中、出来るだけ起伏の少ない尾根筋を選んで発達した道が、江戸時代以前からあったため

たいやき わかば 尻尾の先までつぶあんがぎっしり

西念寺 服部半蔵の墓所。半蔵が使ったとされる「槍」が保存されている

鉄砲坂 近くに御持筒（鉄砲のこと）組組屋敷の鉄砲練習場があった

新宿通り

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

北

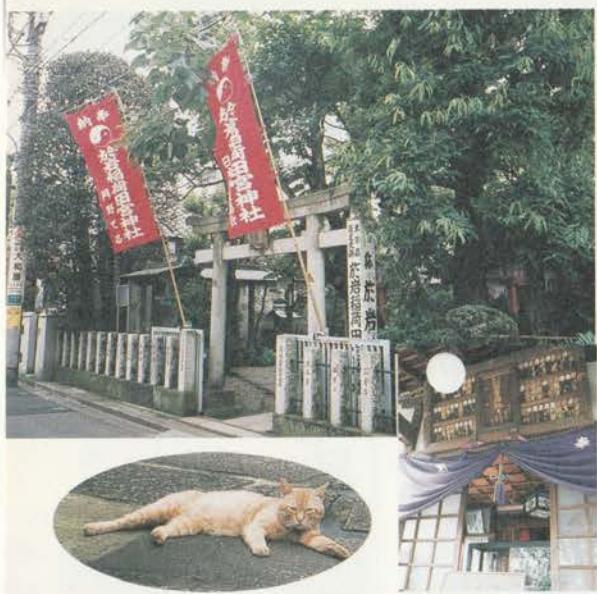
北

北

北

北

北



「お岩」は、寛永13年（1636年）に36歳で亡くなった実在の人。四谷左門町の御先手同心田宮又右衛門の娘で、ほうそうで片目を失明。浪人伊左衛門を婿にとったが、この婿が田宮の上役伊藤喜兵衛のうまい話に乗せられ、二人で謀ってお岩を追い出し、別の女おこを迎える。これを知ったお岩は逆上し、鬼の形相で左門町に戻り、組屋敷の中を狂ったように走り回った末に姿を消した。鬼の形相のお岩の姿が最後に消えた辺りは、鬼横丁と呼ばれ、現在の四谷警察署の南辺りに位置する。お岩の祟りでおことは殺され、伊左衛門も亡靈の鼠に食い殺され、田宮家は断絶する。逸話はこのほかにもあるが、約200年後、これらをもとに創作され、大ヒットしたのが、鶴屋南北の「東海道四谷怪談」だ。

お岩さんの住んだ町
お岩稲荷陽運寺／新宿区左門町 18



策の池のほとりにある弁財天



すりばち
荒木町は擂鉢状の街である。元は料亭であったと思しき建物の間をすり抜け石畳の坂道を下る、津の守坂の側から街を見下ろしながら仲坂の石段を下る……、どの道を抜けてもたどり着くのが「荒木町の底」に当たる「策の池」である。この池の西側の崖には「策の井」から流れ出る滝が松平邸の時代からあり風光明媚な場所であったそう。「策の井」は、家康が獵狩の途中に立ち寄り水を飲んだ際、その井戸で策の汚れを落としたことに因む名前。その「策の井」を水源とした滝の滝壺にあたる池を「策の池」と呼ぶとのことである。この風光明媚な地に、明治に入って芝居小屋「桐座」が開かれたことをきっかけに、そのまわりに料理屋が立ち並ぶようになり、徐々に三業地として栄えるようになった。残念ながら滝の水は、昭和のはじめ頃には涸れてしまったらしいが、荒木町は今もどこか艶っぽい飲み屋街として賑わっている。



三途の川で人の身ぐるみはぐといわれる奪衣婆は、内藤新宿の宿場女郎の商売神として信仰された。正受院には、頭の上に綿の塊をいたく「綿のおばば」と呼ばれる奪衣婆像がある。咳止めに効くとの話が、嘉永元年（1848年）頃から、咳止めに限らず諸病に、また金銭に係る願掛けも必ず叶えられると言われ、ますます参詣者を集めた。その線香の煙は信じ難いことだが四谷見附あたりまでたなびき火事を思わせるほどであったというが、何でも叶うとの噂は、宿場旅籠の旦那衆と寺が共存共栄のために流布したものとの話も。幕末頃、江戸で人気のあった流行神は、正受院の奪衣婆、江戸橋の翁稻荷大明神、両国の於竹大日如来だったというので、その人気ぶりは江戸中から人を集め、ただごとではなかったようだ。ほど近くの太宗寺にも、「葬頭河の婆さん」と呼び習わされ親しまれた奪衣婆像がある。正受院の奪衣婆にあやかろうとしたものだと。奪衣婆は閻魔大王の妻とも妹ともいわれ閻魔像といっしょに設置されることが多いが、太宗寺でもしかり。

太宗寺 奪衣婆像（写真提供：新宿歴史博物館）

ア小麦粉を使わず
モンドの粉末だけ
たくなお菓子です
で焼いた



竜田町本店 ☎3882-4147
北千住ルミネ店 ☎3870-5247
竹の塚店 ☎3853-4147
竹の塚東口店 ☎3884-2551
五反野店 ☎3886-4266
梅島店 ☎3880-3266
花畠店 ☎3860-8841
[洋菓子]
ハルエグレース花畠店 ☎3860-8731
ハルエグレース北千住西口駅前店 ☎3870-4146

「せいやつ」1個プレゼント
切りとて、上記店舗にお持ちください
有効期限: 2003年12月31日迄

「せいやつ」
1コ
プレゼント券

江戸開府400年記念イベントMEMO

千住編

江戸開府400年という記念すべき年に、千住でも記念すべき出来事・イベントが目白押し。その一部を紹介しよう。(日程順)

■芭蕉句碑の建立

母体: 千住大賀会 問先: 3881-2110 (岡本)

日程: 5月14日足立区へ寄贈 場所: 千住宿歴史プチテラス(千住河原町21-11)

主旨:これまで「行春や鳥啼魚の目は泪」が芭蕉の「奥の細道」への旅立ちの句とされてきたが実はこれは5年にわたる推敲の中で挿入された句。これまで埋もれていた句ながら、実際に芭蕉が千住を旅立つ折、素朴で素直な気持ちを詠んだ句「鮎の子のしら魚送る別哉」を、千住の書家、石材店の協力を得て碑にしたもの。

■千住の絵馬屋の地口あんどんを町に

母体: 千住1~5丁目・5町会連合 問先: 3888-1906 (久保田)

日程: 8月下旬~9月15日(千住の祭りまで) 場所: 千住1~5丁目かいわい

主旨: 東京にただ一軒残る手描きの絵馬屋の地口あんどんを、秋の千住の祭りに合わせて町内に飾った。すべて5町会連合のメンバーの手作りで、祭の時に軒下に吊ろうと町の人たちに回観板で呼びかけ実現したもの。(関連記事14ページ)

■江戸四宿歩き

主催: 千住・町・元気・探険隊 問先: 3870-7055

講師: 波多野 純氏 (日本工業大学教授・都市史)

日程: 10月4日(土) P.M.~レクチャー&品川宿歩き

10月11日(土) P.M.~板橋宿&内藤新宿歩き

10月18日(土) P.M.~千住宿歩き&総括

主旨: 江戸と他の町を結ぶ5街道の初宿の町は、江戸から出る人、入る人、送る人、迎える人でいつも賑わう「動いている町」だった。今も重なり続けた歴史が町のそこここに見え隠れし、歩く楽しさを感じさせてくれるこの4つの町を歩く。

■写真で見るやっちゃんとその文化人 明治から昭和前期

主催: 千住大賀会 問先: 3881-2110 (岡本)

日程: 10月9日(木)~13日(月) 場所: 千住宿歴史プチテラス

主旨: 千住の顔であったやっちゃんの賑わいを、写真で楽しむ。やっちゃんを支えてきた女性たちにも光を当てるとともに、近隣に住んでいた建部巣兆ら文化人の紹介も。

■建部巣兆展&千住酒合戦

主催: 千住仲組協議会 後援: 足立区教育委員会 問先: 3882-1818 (北條)

日程: 11月15(土)~17(月) 建部巣兆展 於千住宿歴史プチテラス

11月16日(日) 千住酒合戦 於河原町稻荷神社境内

講師: 安藤義雄 (足立史談会会長)

主旨: 江戸のころ、文人墨客を集め話題となった千住酒合戦を、文献に基づいて解説付きで再現するほか、さき酒なども楽しめる。

(建部巣兆は酒合戦に参加した江戸俳諧三大家のひとりで千住住民だった人)

新宿といえれば色恋沙汰

成覚寺／新宿区新宿2-15-18



成覚寺の六地蔵

伊豆の長八の「山水図」(写真提供: 新宿歴史博物館)は、作家の井上靖が寄進したもの



四谷見附の左官、沓屋の辰五郎の家に生まれた「沓龜」とこと吉田亀五郎は、千住にゆかりの伊豆の長八の弟子。須賀神社に、「花魁」「素戔鳴尊」など数点の華やかなこて絵を奉納している。長八が四谷や内藤新宿を訪れたかどうかは不明だが、師匠である長八の作品「山水図」も同社に保存されているのが興味深い。



内藤新宿にも長八のこて絵が！ 須賀神社／新宿区須賀町5

いわし雲

宿場通りの

他郷めく



町雑誌千住は、千住・町・元気・探険隊が母体となって発行されていますが、応援会員の皆さんのご協力、販売いただいているお店のご協力…と、町の多くの皆さんと一緒に上り上げている雑誌です。皆さんの応援参加をお待ちしています。

- 購読応援会員 年会費3千円以上（各2冊3回配本・送料、手数料込み）
- となり組応援会員 年会費6千円以上（各4冊3回配本・送料、手数料込み）
- 心意気応援会員 年会費1万円以上（各5冊3回配本・送料、手数料込み）
- 法人会員 年会費3万円以上（各10冊3回配本・送料、手数料込み）
- 心意気応援会員は紙面でお名前を、法人会員は社名他を紹介させていただきます。
- 2口以上のご協力、500円からのカンパも大歓迎

会員になつていただける方はお近くの郵便局から下記までご入金ください。入金確認次第、会員登録させていただきます。名前、郵便番号、住所、電話番号のご記入を正確にお願いします。

【郵便振替口座】00140-4-103836（町雑誌千住編集室）

会員になつてくださった皆様ありがとうございます

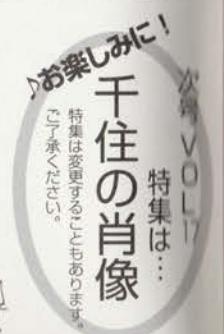
足立区観光協会	あやめ寿司本店	石原 捷恵	一 初	石川 義夫	伊藤隆太郎
上木 恵子	うなぎ千寿	(有)裏方家多聞堂	奥津 麗子	奥乃丸伸之助	紙谷 衛
鯨岡 亘	久保田生花店	栗田田鶴子	喫茶 蔵	金蔵寺	坂本税理士事務所
佐藤 真澄	笹木美奈子	三忠本店	塩島 莞爾	清水 正雄	新日本百年茶
鈴木 尚利	スペースエイド	千住ファーマシー	千住本氷川神社	高見澤康夫	鳥 真
虎谷 恒子	中島 勝正	野田 征子	堀内 延浩	松田季美子	マツマル
柳原ぽん太	波多野 純	宮田 一男	酒のモトハラ	よしだ や	吉田 忠司
若林登紀子	(敬称略、順不同)				

コミック3万冊ゆったり80席

まんが喫茶
営業時間 平日AM10:00~PM11:00
日祭日AM10:00~PM10:00
TEL 03-3879-7532
イトヨーカ堂となり柏光社ビル4F

槍かけ松最中
おにぎり 大正の和
千住 なか井
電話 (3882)1001-1002
北千住駅東口
足立区千住旭町4-10

東武旭町歯科医院
削らないのに白い歯になれる
TEL 3888-3971
北千住駅東口
足立区千住旭町4-10



千住応援広告を募集しています（P31参照）

町雑誌 千住

- VOL.1 千住の祭
- VOL.2 錦湯めくり
- VOL.3 飲み処食べ処
- VOL.4 千住宿を遊ぼう
- VOL.5 千住の餅菓子屋
- VOL.6 映画文学の千住 舞台となった
- VOL.7 映画文学の千住 舞台となった
- VOL.8 千住手仕事職人の世界
- VOL.9 千住手仕事職人の世界
- VOL.10 千住の年中行事
- VOL.11 千住の年中行事
- VOL.12 千住の魚河岸
- VOL.13 荒川 PART1
- VOL.14 ランチ PART1
- VOL.15 ランチ PART2

バックナンバー販売店
アサヒ書店
笠間産業
仁寿堂薬局
ぶっくらんど
渡辺優文堂
北嶋書店
高原書店
丸善がある北千住ルミネ店
書肆アクセス（神保町）

お願い その2 スタッフを募集します！

ボランティアスタッフですが、面白そうと思う方、ご連絡ください。特に身軽に動いてもらえる人好きなスタッフを募集しています。▼取材にまわれる方▼写真を撮れる▼MAC（クオク）ユーザーで版下作業をしていただける方▼宛名書き配送などの出来る方▼配達できる方などなど…

●千住の面白いヒト、もの、こと募集します！
なんでも千住の情報を教えてください。お手紙FAX、お電話などでよろしくお願いします。

町雑誌千住はここで買えます！

●千住旭町／アサヒ書店 旭町歯科医院 喜田家ルミネ店 とんかつもりき 丸善ら・がある よしだや ●千住東町／アーサロンノヒラ ●柳原／ゑびす屋 ●千住一丁目／喫茶蔵 コバガーデン 烧かつくし 椿屋 日の出屋 前田クリーニング店 山本園 ゆうらいく ●千住二丁目／五味鳥 千住の永見 ぶっくらんど 三河屋 ●千住三丁目／一番珈琲物語 メンズギャラリー福田 渡辺優文堂 ●千住四丁目／五門 酒の花栗屋 ●千住五丁目／梅の湯 ラ・ルミエール ●千住大川町／ホシノ理容室 山口書店 ●千住寿町／大黒湯 ●千住元町／タカラ湯 モカ ●千住桜木町／穗高 ●千住柳町／やなぎ 金乃湯 ニコニコ湯 ●千住竜田町／アリス喜田家本店 大衆割烹つばめ ●千住中居町／北嶋書店 コロラド ●千住宮元町／高原書店 ●千住仲町／小桜湯 まじ満 ●千住河原町／不動産のカサマ プチテラス ●千住橋戸町／仁寿堂薬局 德田屋食堂 ●千住緑町／魚源オリーブ しずか屋 中村屋 バレット 丸安青果店 ●千住外／喜田家五反野店 喜田家竹の塚西口店 喜田家梅島店 富士ブックス五反野 小泉書店 ブックステーション小泉 ブックスひでき 書肆アクセス ●この他にもあります。お問い合わせください。
●町雑誌千住をおいてくださるお店を募集します！
ご協力いただけるお店は
ご連絡ください。

編集後記

●「降る雪や明治は遠くなりにけり」と俳人の中村草田男が詠んだのは昭和6年のことらしいのですが、町や坂の名前、道筋の成立立ち、少し調べてみると、21世紀になつても江戸は意外と近くにありました。（村重秀彰）
千住に住んで4年ほど。フリーインスで仕事をしているだけ、ここ1年くらいから早起きになつた。日の出の子供時間」と名付けている。（ながだえり）
昔は江戸の出口であった四宿。そこから始まるそれぞれの街道沿いに、幾つもの宿場に人々が集まり町になり、今に至るのだから、あとづくつ感じました。とはいまだまだ知りえぬ土地は多く、行ってみたいな他所（よその国…）です。
千住宿はまち歩きが非常にしやすい。「品川の街に興味を持つてくれた人はみんなエキカルム」こと品川の有名な町の皆さんに感謝！（品川宿担当がわかみ）
僕は「イスラームの香兵たち」という傭兵たちで、歩さんへのインタビューモモちゃんのちびつ子が空を見て、雲にお月様だお星様だ飛行機だと言うようになつたので、私もよく空を見上げるようになりました。暮れかけた夕方の空はときどき、見とれるほど美しいです。千住の路地の上にぽつかり広がる狭い空の風景は、今も昔も、これからも、変わらないのかな。（F）

カンパをしてくださった皆様ありがとうございます

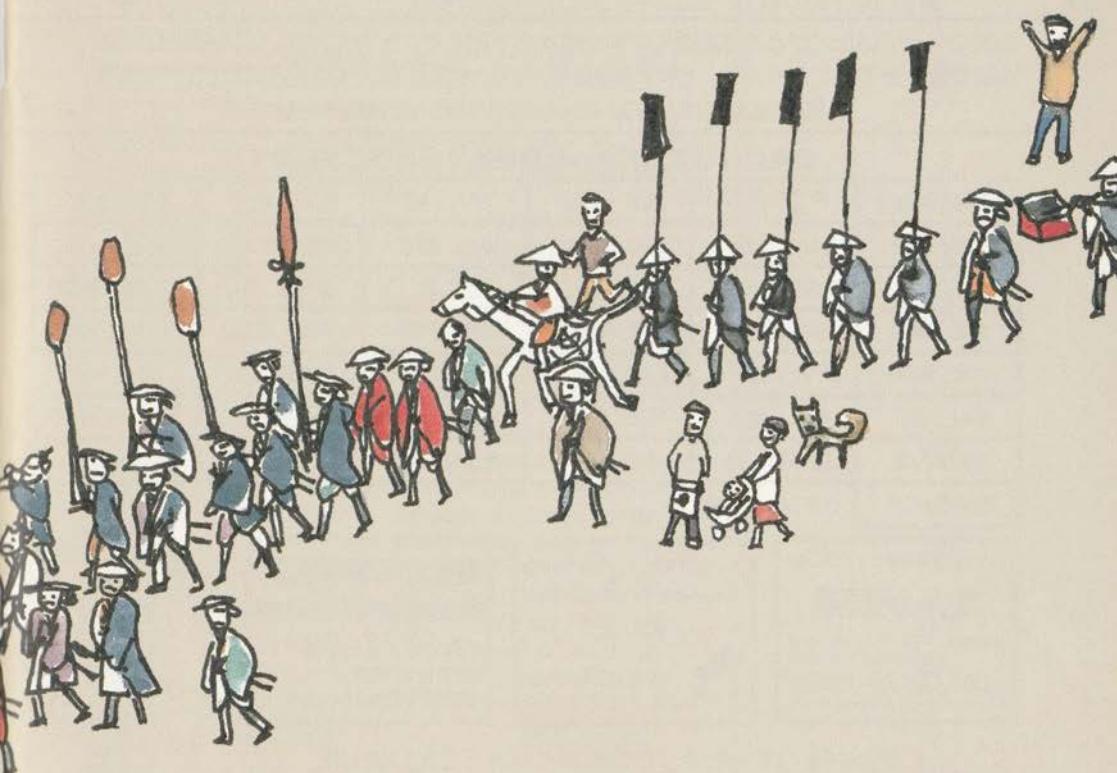
ご協力ありがとうございました！多くの皆さんのお力を借りました。

写真・情報提供他、ご協力ありがとうございました！

金子正雄 鈴木洋一 正受院 足立区立郷土博物館 旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会

品川区立品川歴史館 しながわ観光協会 板橋区立郷土資料館 新宿区新宿歴史博物館 江戸東京博物館

【参考文献】『復原・江戸の町』波多野継（筑摩書房）『アミューズ2000.10.11号』特集：鬼平江戸四宿を歩く（毎日新聞社）『模型でみる江戸・東京の世界』（財）東京都歴史文化財団／『図表でみる江戸・東京の世界』（財）東京都歴史文化財団／『歴史と文化の散歩道』（東京都政策報道室）『別開室町：江戸の真実』（宝島社）『歴史読本』昭和60年6月号／特集大江戸おもしろまじめ役人大全』（新人物往来社）『歴史読本1992年8月号』特集大江戸埋蔵にやさしい生活術』（新人物往来社）『江戸の盛り場』（角川学舎）『大江戸暮らし』（大江戸探検隊者（P.H.P研究所）『大江戸ものしお園』花咲一男監修（主婦と生活社）『江戸東京の地図と火事』山本純美（河出書房新社）『江戸東京歴史探検1～8』（中央公論社）『江戸四宿を歩く』（街と暮らし社）『東京下町散歩山の手散歩2004年版』（成美堂出版）『みてみよ江戸東京博物館』（財）東京都歴史文化財団／『江戸東京博物館総合案内』（財）東京都歴史文化財団／『新宿歴史博物館常設展示図録』（新宿区教育委員会）『江戸東京を歩く、癒され』岩見見一郎著（二刷）『特別展 江戸四宿』（1994特別展 江戸四宿実行委員会）『街を歩く1日交通』大高利一郎編著（ふるんぱる）『おのの道を歩くvol.7千草・角川書店）『週刊日本の道選5日光湖中』（講談社）『足立区郷土博物館第7号』特集あだちの歴史歩道展』（足立区立郷土博物館）『足立区の歴史』足立区歴史文庫（名著出版）『足立の歴史』足立区郷土資料館（足立区立郷土博物館）『足立区郷土手帖』（名著出版）『足立千住宿を遊ぼう』（千住町・元気・探険隊）『消えゆく左官職人の技 肌絵』藤田洋三著（小学館）『織紋路漫遊記』藤田洋三著（石川社）『板橋の近代の歩み』（板橋区立郷土博物館）『中山道と板橋宿』（板橋区教育委員会）『板橋・熊野・仲野』（板橋区教育委員会）『板橋区の歴史』編集5編集（板橋区）アサヒグラフ1980.8.10号』（毎日新聞社）『参勤交代文化記』忠田敏郎（平凡社）『改訂江戸散歩』安本直弘（みくに書房）『角川日本地名辞典』牛込区、四谷区、淀橋区）『岩見見一郎著、『江戸の坂道』（角川書店）『東京の坂道』（石川利二著）『新人物往来社』『新宿区史』成立60周年記念』新宿区総務部『新宿区町名誌』新宿区教育委員会『新宿の昔』芳賀善次郎（紀伊國屋書店）『新宿大通り二八〇年』新宿大通り商店街振興組合『御殿街 第百二十四回』西源初伯爵詩会『新宿文化財ガイド』新宿歴史博物館、『都史紀要』内藤信樹、東京都『写真東京風土記』田中雅夫（毎日新聞社）『伊豆の長い世界』村山道宣（木蓮社）『街道の日本』江戸 街道の起点』藤田覚・大岡聰（吉川弘文館）『新訂 江戸名所図会』市古生也（ちくま学芸文庫）『昭和二十年東京地図』西井一夫・平嶋彰彦（筑摩書房）『總覽 日本の建築』東京建設計画（新建築社）ほか



町雑誌「千住」 VOL.16 2003年 10月発行

発行 千住・町・元氣・探険隊 〒120-0044足立区千住緑町2-33-23TEL 03-3870-7055

編集 町雑誌千住編集室 〒120-0034足立区千住3-52 TEL&FAX 03-5244-2158

編集人 大野順子 舟橋左斗子 (郵便振替口座) 00140-4-103836

STAFF 取材・原稿／川上佳子 藤井紀章 村重秀彰 写真／伊東知子 柏原文恵 川上佳子 熊谷永浩

武居厚志 館又将文 松本康一 村重秀彰 特別協力／八木幸治 デザイン協力／飯田みちる 篠崎幹夫 鈴木

玲子 イラスト／小山敦子 なかだえり 協力／板橋陽子 稲葉あや子 大江明俊 大野清士 原島陽子 山崎正樹

千住町・元氣・探険隊HP：<http://1010tankentai.fc2web.com/>

本誌掲載記事・写真・イラスト等の無断複写（コピー）・複製・転載を禁じます。